

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

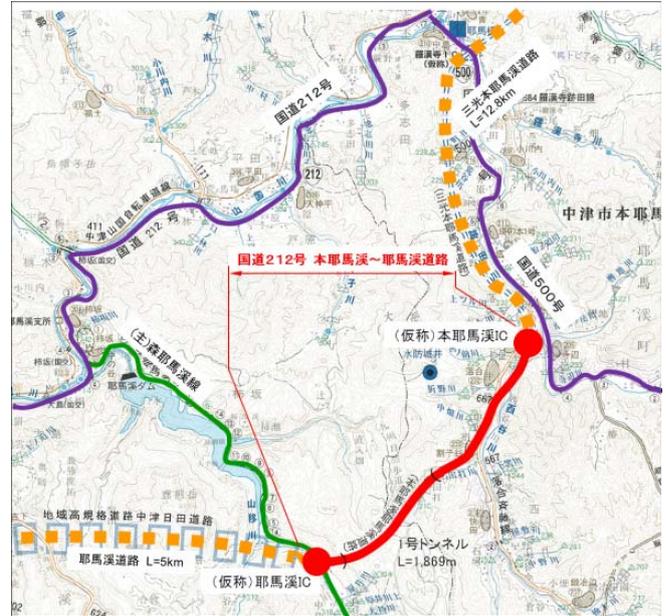
担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	地域高規格道路 <small>なかつひた</small> 中津日田道路 一般国道212号 <small>ほんやばけい やばけい</small> 本耶馬溪～耶馬溪道路	事業区分	一般国道 大分県
起終点	自：大分県 <small>なかつ</small> 中津市 <small>ほんやばけい</small> 本耶馬溪町 <small>おちあい</small> 落合 至：大分県 <small>なかつ</small> 中津市 <small>やばけい</small> 耶馬溪町 <small>やまうつり</small> 大字山 移	延長	5.0km
事業概要 国道212号本耶馬溪～耶馬溪道路は、地域高規格道路である中津日田道路の一部を担う延長5.0kmの道路であり、道路防災上の危険箇所を回避することによる緊急輸送路の機能確保を目的としたバイパス事業である。			
H8年度事業化	都市計画決定 無し	H11年度用地着手	H11年度工事着手
全体事業費	約179億円	事業進捗率	約83%
計画交通量	14,500台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) : 1.8 (残事業) : 22.1	総費用 (残事業/事業全体) : 17/207億円 事業費 : 12/202億円 維持管理費 : 5/ 5億円	総便益 (残事業/事業全体) : 376/376億円 走行時間短縮便益 : 285/285億円 走行経費減少便益 : 40/ 40億円 交通事故減少便益 : 51/ 51億円
基 準 年 : 平成22年			
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C=24.3 (交通量 +10%) B/C=19.9 (交通量 -10%) 事業費変動 : B/C=20.6 (事業費 +10%) B/C=23.7 (事業費 -10%) 事業期間変動 : B/C=21.4 (事業期間+20%) B/C=22.1 (事業期間-20%)			
事業の効果等 ・重要港湾中津港、東九州自動車道及び大分自動車道を結ぶ循環型ネットワークの形成。 ・中津市（中津港）～日田市間で83分→50分の33分の時間短縮（中津日田道路全線供用） ・現道における防災上の要対策箇所の回避。 ・交通事故の減少。 ・旧中津市内と旧下毛郡地域のアクセス向上による生活道路の改善。 ・観光地へのアクセス向上。			
関係する地方公共団体等の意見 中津市、日田市、宇佐市や市議会議員及び商工会議所等で構成する中津日田間地域高規格道路促進期成会（会長：中津市長）による要望活動が行われている。			
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成20年度末に中津港線・中津道路の3.6kmが供用開始。 ・平成19年度に三光本耶馬溪道路（直轄権限代行）、平成20年度に臨港道路中津港線、耶馬溪道路が事業着手。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成21年度末の事業進捗率は事業費ベースで約83%であり、用地買収は完了している。主要な構造物もほぼ完了しており、残事業は、舗装工、交通安全施設工等である。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 完成4車線から完成2車線への計画の見直しに伴う修正設計や、主要構造物である長大トンネル（L=1,896m）において、想定外の変位に伴う工法検討等で期間を要したため。地域の同意も取れており、事業効果を早期発現できるよう、工事の進捗を図っていく。			
施設の構造や工法の変更等 ・暫定2車線整備から追越車線を含む完成2車線に必要な事業費に見直し。 ・隣接工区（三光本耶馬溪道路及び耶馬溪道路）の事業化に伴う各インターチェンジ計画の見直し。			
対応方針	事業継続		

対応方針決定の理由

以上の事業の効果、事業評価監視委員会における審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。